



# 2022 JAPAN CHALLENGE



## S-FJ 筑波・富士シリーズ 第3戦 SCCN MAY RACE WEETING in TUKUBA

2022年 5月 22日 天候:晴れ 参加19台

2022 S-FJ ジャパン・チャレンジの第2大会が筑波サーキットで開催された。今年には同日に鈴鹿サーキットのレースも開催されており、遠征組の参加は1台のみと寂しかったが、それでも19台の参加があり、そして、今年のレースを象徴するように若手ドライバーの活躍が見られるレースとなった。



テキスト:はた☆なおゆき

全8戦で争われる筑波・富士シリーズは、早くも3戦目を迎えることとなった。そして W タイトルとして開催されるジャパン・チャレンジも、スポーツランド SUGO での連戦を経て、これが第2大会。ひとつ残念だったのは、同じ週末に鈴鹿サーキットでもレースが行われており、積極的に遠征レースも参戦していた面々が姿を見せていないことだ。エントリーは 19 名にも及んだが、その大半はレギュラーのドライバーで、遠征ドライバーはひとりだった。

なお、筑波・富士シリーズのランキングトップは、第2戦で初優勝を飾っている田上蒼竜選手(A's カンパニーZAP ED)で、開幕戦ウィナーの稲葉摩人選手(ZAP SPEED 10V ED)、白崎稜選手(ZAP スタッフリソース ED)という順で続いており、ここまでの2戦で表彰台を独占している。

## 《公式予選》

練習走行が行われた土曜日は、気まぐれな天気にも悩まされていたものの、日曜日の筑波サーキットは雨が降ったのは早朝までで、スーパーFJの予選が始まる頃には路面はすっかり乾いていただけでなく、雲の切れ間から青空さえ見えるようになっていた。

計測は20分で、9時45分にスタート。独自のレギュレーションによって、前回の決勝結果順にコー



スインするのが筑波の流儀。田上選手からピットを離れていく。計測2周目には1分を切るドライバーも現れて、まずトップに立ったのは武者利仁選手(ゼンカイレーシング遊技闘速)。しかし、次の周には1分58秒台に入れて、稲葉選手がトップを奪い取る。

だが、そのままとはいかないのが激戦区・筑波。すぐに安田航選手(ファーストガレージ&S ウインズ)がトップに立ち、それを上回ったのが田上選手だった。これに対し、直後に58秒342、58秒252と好タイムを連発した、安田選手が再びトップに立つ。しかし、ポイントリーダーは、さらに意地を見せた。田上選手が58秒167を記録して、再びトップを奪還する。このタイムがダメ押しの一発に。終盤は多くのドライバーが伸びを欠いた中、稲葉選手が58秒395、白崎選手が58秒431にまで短縮を果たすも、安田選手には一歩及ばず。3番手、4番手につけることとなった。5番手が武者選手で、58秒507にまでタイムを伸ばしていた。

ポールポジション:田上蒼竜選手(A'sカンパニーZAP ED)

無駄な周がいっぱいあったので、ちょっとタイヤ使っちゃったかな、という感じですね。路面は全部ドライで、完璧に。一回ピットに入って、内圧をチェックして行ったんですけど、走りを合わせられなかったり、場所取りで苦戦していたりしてました。ただ、前回よりはタイム差はあるんで、なんとかかなるんじゃないかって思っているんですけど、やっぱりスタートが大事なので、そこをまずしっかり守ってホールショット決めて、また前回みたいに盤石の体制がとれたらと思っています。



予選2番手:安田航選手(ファーストガレージ&S ウインズ)

練習から調子は良かったんですが、今回ポールの田上選手は、やっぱり速かったですね。練習どおりの無難な流れだったと思うんですけど、決勝に向けてはもうちょっとパフォーマンス上げないと勝てないな、という印象でした。ポール獲れる自信も正直あったので、ちょっと悔しいですね。去年か



らタイヤも車も変わっているんで、なかなか開幕戦はアジャストできなかった部分があって。でも、やっと最近になってダンロップタイヤも分かってきて、車のセットもだいぶ変えて、チームの皆さんのおかげで良くなっているんで、やっとここから戦えそうな感じなので、過去2戦は忘れて、ここから切り替えていきたいです。

予選3番手:稲葉摩人選手(ZAPSPEED 10V ED)

ドライビングの課題が残っていたので、その残り切った課題を消化する間に、タイヤの美味しいところを使っちゃって、最後にタイムが出るという感じになっちゃったので、もっとこう、ドライバーの課題が片付いていて、タイヤの美味しいところをいいドライビングで使えていたら、ポールは狙えたかなというのが正直な感想です。受験で練習ができなかったのもありましたが、それは3月までの話で、3月のレースは勝っているんで、やっぱり気温に合わせたドライビングというのがあると思うので、車の動かし方というところで、まだまだ課題があるのかなという感じです。ここで流れを変えます、頑張ります。



## 《決勝レース》

決勝レースは18周での争い。マシンがグリッドに並べられる頃には、強い日差しが注ぐようになり、空に浮かんだ雲はまるで夏場のそれだった。4番グリッドから誰より鋭いスタートを切ったのは白崎選手。フロントローに並んだ田上選手、安田選手には及ばずとも、稲葉選手を抜いて3番手に浮上する。



しかし、第1ヘアピンで後方集団に接触が。4台がストップし、即座に赤旗が出される。20分ほど中断されて、レースは3周減の15周で仕切り直されることとなった。1周経過していなかったため、予選順位に戻してグリッドに並べられたため、白崎選手はせっかくの好スタートが水の泡と化してしまう。

改めて切られたスタートでは、それぞれしっかり決めて、上位陣のポジションは変わらぬまま。それでもトップの田上選手は早々と独走体制に入って、1周目を終えた時点でコンマ8秒の差をつけ、2周目の1コーナーで稲葉選手が安田選手にプレッシャーをかける間に、次の周には1秒6にまでリードを広げていた。しかし、田上選手が逃げられたのは3周目までだった。稲葉選手を振り切った安田選手の方がペースで上回るようになり、ファステストラップの連発で徐々に差を詰めてきたからだ。10周目には1秒を切るまでとなり、さらに緊張感が増すが、田上選手もミスを犯さず、安田選手にピタリと食らいつくことを許さない。その後方では稲葉選手が単独走行となったのに対し、白崎選手と武者選手による4番手争いも激しいが、ここもまた逆転に至るきっかけは最後までなかった。

改めて切られたスタートでは、それぞれしっかり決めて、上位陣のポジションは変わらぬまま。それでもトップの田上選手は早々と独走体制に入って、1周目を終えた時点でコンマ8秒の差をつけ、2周目の1コーナーで稲葉選手が安田選手にプレッシャーをかける間に、次の周には1秒6にまでリードを広げていた。しかし、田上選手が逃げられたのは3周目までだった。稲葉選手を振り切った安田選手の方がペースで上回るようになり、ファステストラップの連発で徐々に差を詰めてきたからだ。10周目には1秒を切るまでとなり、さらに緊張感が増すが、田上選手もミスを犯さず、安田選手にピタリと食らいつくことを許さない。その後方では稲葉選手が単独走行となったのに対し、白崎選手と武者選手による4番手争いも激しいが、ここもまた逆転に至るきっかけは最後までなかった。

結局、そのままの順位で 15 周が経過し、チェッカーは田上選手に対して最初に振られることとなった。筑波・富士シリーズ 2 連勝の田上選手は、ランキングトップをキープするとともに、ジャパン・チャレンジにおいてもトップに浮上した。

また、同じドライバーで占められ続けていた表彰台は、ついに一角を安田選手が崩して、今季ベストリザルトを残すこととなった。そしてジェントルマンドライバーを



対象とするマスタークラスの優勝は、唯一遠征の夕田大助選手(LAPS KKS)で、総合では11位に。

次回の筑波・富士シリーズは、引き続きジャパン・チャレンジとの W タイトルで、舞台を富士スピードウェイに移して 6 月 25~26 日に行われる。W ヘッダーとして開催され、なおかつ年末には日本一決定戦が開催されるサーキットだけに、全国から多くの遠征があるのは、もはや必至。田上選手らレギュラーと繰り広げられる大激戦が、今から楽しみでならない。



ウィナー:田上蒼竜選手(As カンパニー-ZAP 10V ED)

展開に助けられました、自分は。ペース的には後ろの方が速くて、自分がどれだけタイムの落とし幅を少なくできるかな、って思ってやっていたんですけど、ベストが最後の周だったので。ラップ数見ている『ファイナルラップだ、守れる』と思ってからタイムが出たので、ちょっとメンタル面はまだ鍛える部分があるな、って思いました。でも、とりあえず2連勝できて良かったです。次の富士はまたジャパン・チャレンジもあるし、日本一の前哨戦みたいにもなるので、たぶん西からいろいろ来ると思うんですけど、負けないように頑張りたいと思います。

## 2位:安田航選手(ファーストガレージ&S ウインズ)

すごく全力で、この上ないほど攻めていたんですが、田上選手が速くて、一緒ぐらいのタイムだったんですが、抜くまでには至らなかったですね。まあ、次はもうちょっとスピード上げないと勝てないと思っています。チームがいい車にしてくれて、アドバイスもくれて、僕も去年より良くなっている部分はすごくあるので、そういう意味では去年以上の結果を出せるように、ここから切り替えていきたいです。

## 3位:稲葉摩人選手(ZAPSPEED 10V ED)

まだまだスタートも下手くそなので、ちゃんと勉強し直して。予選で抱えていた課題は解決して、最後の最後でタイムを出して、レース後半タレてくるところでタイム出せたので、もっと序盤からちゃんと速く走れるようにしないとイケませんね。ただ、今まで突っ込み過ぎていたところを、突っ込まずに走ろうと思ったら逆に、車の向きをなかなか変えられなかったというのもありました。やっぱり、いいところを探れるようにならないと、これ以上先はないと思うので、次の課題はなんでもできるドライバーになることです。





# MAY RACE MEETING in TSUKUBA

JAF Championship Super-FJ Race TSUKUBA-FUJI Series Round.3 ROADSTER Party Race III East Japan Series Rd.2  
Tsukuba Touring Car Race TTC1400 Series Round.2 AE86/P-FR/Vitz/86/BRZ RACE Round.1  
Caterham Cup Super SEVEN Race



Tsukuba Circuit(2,045m)

## S-FJ 公式予選

2022 / 5 / 22 :

### 正式予選結果表

Weather :晴れ

Track :ドライ

Pos	No	Class	C.P.	Name	CarName	Type	Best Time	Lap	Gap	Ave. Km/h
1	13			田上 蒼竜	A'sカンパニー ZAP ED	RD10V	58.167	10 / 19		126.567
*1 2	53			安田 航	ファーストガレージ&Sウインズ	RD10V	58.252	9 / 20	0.085	126.382
3	14			稲葉 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	58.395	17 / 19	0.228	126.072
4	26			白崎 稜	ZAPスタッフリソースED	RD10V	58.431	18 / 19	0.264	125.995
5	71			武者 利仁	ゼンカイレーシング 遊技関連ED	KKS-2	58.507	8 / 18	0.340	125.831
6	52			岩本 瞬	ファーストガレージ 小倉学園S2	KK-S II	58.737	17 / 19	0.570	125.338
7	7			本田 千啓	オートルック☆モダン☆10V	RD10V	58.774	10 / 16	0.607	125.259
8	73			下村 剛司	Sウインズ KENS2ED	KKS2	58.836	7 / 20	0.669	125.127
9	31			宇高 希	TRS TAKE 10V ED	RD10V	58.903	8 / 18	0.736	124.985
10	91			山下 友基	ELEVレーシング HRF 10v	RD10V	58.917	12 / 19	0.750	124.955
11	22			内藤 大輝	RCIT RaiseUP MT	KKS-2	58.932	15 / 18	0.765	124.924
12	0	MASTERS 1		夕田 大助	LAPS KKS	KKS-2	59.022	14 / 20	0.855	124.733
13	27			草野 裕也	TRF.CSI KK-S II ED	KK-S II	59.073	12 / 19	0.906	124.625
*1 14	3	MASTERS 2		秋山 健也	スーパーウインズ KKS-ED	KKS	59.154	18 / 18	0.987	124.455
15	66			戸谷 友規	DEEP-R・10V・ED	RD10V	59.177	9 / 20	1.010	124.406
16	79			中澤 凌	ZAP NAKs 10VED	RD10V	59.231	18 / 19	1.064	124.293
17	46	MASTERS 3		本間 隆史	MAT RP イマージュ10V	RD10V	59.465	16 / 18	1.298	123.804
18	1			澤井良太郎	オートルックカワモト電工10V	RD10V	59.479	6 / 19	1.312	123.775
*1 19	16	MASTERS 4		竹沢 茂	スーパーウインズ ☆KKS ☆ED	RD10V	1'00.447	14 / 19	2.280	121.793

\*\*\*\*\* 以上予選通過 (1'15.752 - 130%) \*\*\*\*\*

## JAF筑波スーパーFJ選手権シリーズ 第2戦



Tsukuba Circuit(2,045m)

## S-FJ

2022 / 5 / 5 :

### 正式決勝結果表

Weather :晴れ

Track :ドライ

Pos	No	Class	C.P.	Name	CarName	Type	Lap	Total Time	Gap	Best Time	Lap	Ave. Km/h
1	13			田上 蒼竜	A'sカンパニー ZAP ED	RD10V	18	17'42.666		58.575	8 / 18	124.701
2	26			白崎 稜	ZAPスタッフリソースED	RD10V	18	17'45.588	2.922	58.630	12 / 18	124.360
3	14			稲葉 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	18	17'46.679	4.013	58.713	7 / 18	124.232
4	53			安田 航	Fガレージ&Sウインズ S II	KKS- II	18	17'48.286	5.620	58.479	16 / 18	124.045
5	71			武者 利仁	ゼンカイレーシング 遊技関連ED	KKS- II	18	17'53.952	11.286	58.795	12 / 18	123.391
6	52			岩本 瞬	ファーストガレージ 小倉学園S2	KKS- II	18	17'54.184	11.518	58.969	12 / 18	123.364
7	31			宇高 希	TAKEFIRST 10VED	RD10V	18	17'58.009	15.343	59.259	16 / 18	122.927
8	7			本田 千啓	オートルック☆モダン☆10V	RD10V	18	17'59.182	16.516	59.116	14 / 18	122.793
9	22			内藤 大樹	RCIT RaiseUP MT	KKS- II	18	17'59.636	16.970	59.156	16 / 18	122.741
10	73			下村 剛司	Sウインズ KENS2ED	KKS- II	18	17'59.636	16.970	59.159	14 / 18	122.741
11	91			山下 友基	ELEVレーシング HRF 10V	RD10V	18	18'00.740	18.074	59.061	15 / 18	122.616
12	79			中澤 凌	ZAP NAKs 10VED	RD10V	18	18'01.710	19.044	59.209	12 / 18	122.506
13	3	MASTERS 1		秋山 健也	スーパーウインズ KKS-ED	KKS	18	18'02.597	19.931	59.294	14 / 18	122.406
14	1			澤井良太郎	オートルック フレックス 10V	RD10V	18	18'03.097	20.431	59.202	17 / 18	122.349
15	66			戸谷 友規	DEEP-R・10V・ED	RD10V	18	18'04.356	21.690	59.209	12 / 18	122.207
16	27			草野 裕也	TRF.S II ED	KKS- II	18	18'05.509	22.843	59.281	5 / 18	122.077
17	46	MASTERS 2		本間 隆史	MATレーシング PJ10V	RD10V	18	18'12.199	29.533	59.666	10 / 18	121.330
18	16	MASTERS 3		竹沢 茂	スーパーウインズ ☆KKS ☆ED	KKS	18	18'31.702	49.036	1'00.645	16 / 18	119.201

\*\*\*\*\* 以上完走 (16Laps) \*\*\*\*\*

